



1 二郭切北西部発掘現場



2 二郭切岸発掘現場



3 二郭東切岸発掘現場



3 二郭東切岸発掘現場



4 本郭二郭間堀発掘現場

## 私部城の発掘調査

私部城では、これまで発掘調査を重ねてきました。この中では、城跡の状況や、私部の町との関係を知る成果が得られています。

### ■地中に埋没した堀と曲輪（郭）

古い航空写真や地形図からも現在は埋没した堀が多くあったことが確認されていましたが、発掘調査ではさらに地中で埋没した堀が発見されました。また、二郭の北西では埋没した郭も確認されています。こうした成果により、城の姿がより明らかになってきました。中心の郭群の周囲をめぐる多くの堀が、コンパクトな堅城の守りの要の一つだったとみられます。

### ■曲輪（郭）の盛土

私部城でどのような土木工事があったのかということも発掘調査によってわかってきています。本郭付近や、二郭の南半では、交野台地の地盤層を利用して曲輪としていたことがわかりました。それに対して、二郭や三郭の北半の発掘調査では、高さ1m以上の盛土が広範囲におこなわれていることがわかりました。こうした盛土は堀の掘削で生じた排土

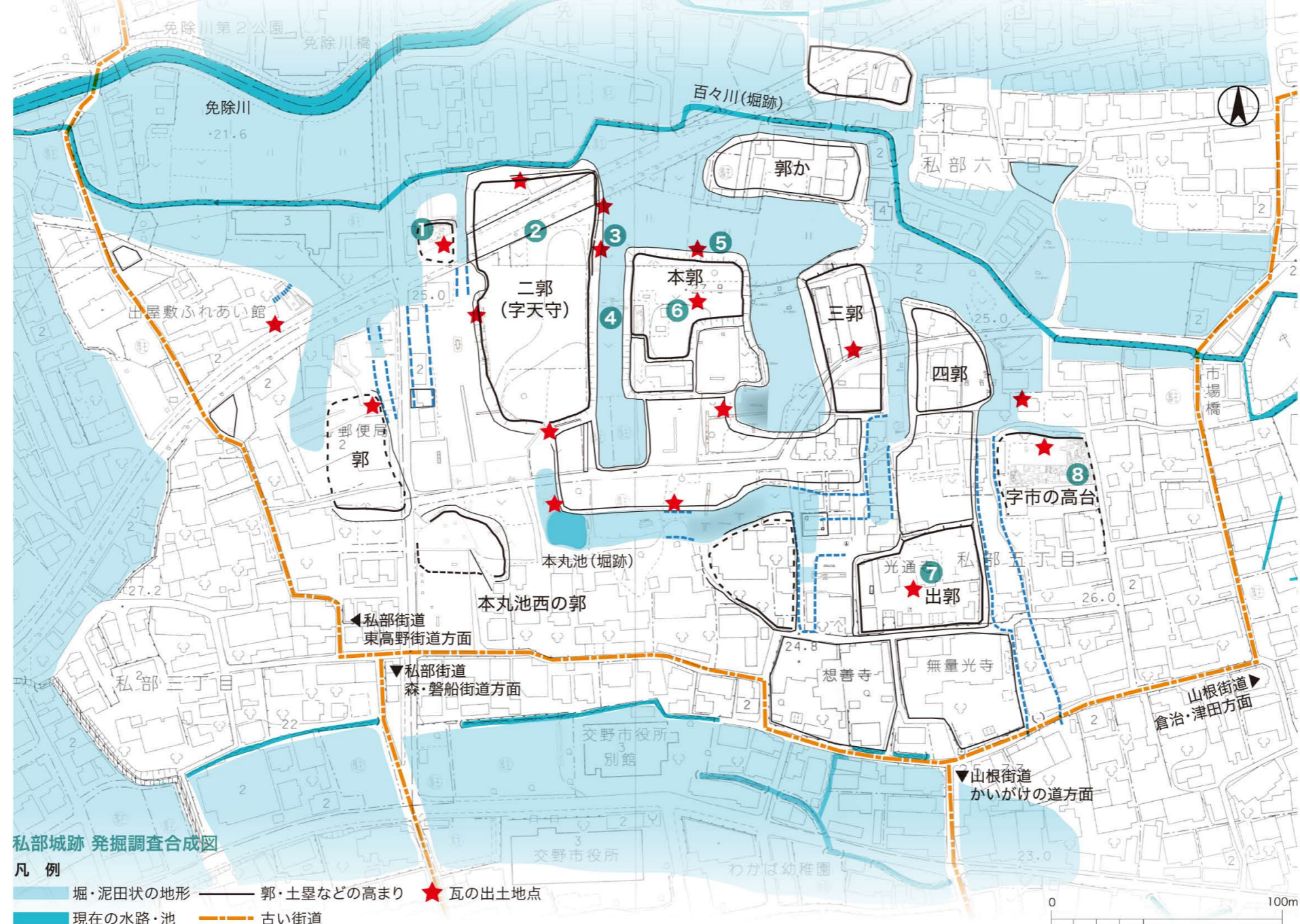
を利用したものとみられます。自然地形を巧みに利用しつつ、相当の土木工事を行うことによって城が築かれていたのです。

### ■出土した瓦

私部城跡の調査では、本郭や二郭周辺を中心として、城の広域で瓦が見つっています。瓦は城の廃絶時の土坑などから出土しており、城の建築に瓦が伴っていたものと考えられます。特に、軒平瓦の中には、現在の東大阪市にあった若江城の瓦とよく似たものが2種類確認されています。若江城は『信長公記』の中で、私部城とともに織田方についた城の1つとして登場します。歴史上の関係の深い若江城とのつながりを考古資料からも裏付けるもので注目されます。

### ■私部城以前の町場との関係

私部城に隣接する「市」の地名が残る地点での発掘調査では、私部城より古い時期の区画溝が見つっています。これは私部城以前に屋敷地などが存在を示すものです。私部城が中世の私部の町に接するように築かれていたことがわかる成果です。



5 本郭北側切岸発掘現場



6 本郭より出土した軒丸瓦



6 本郭より出土した軒平瓦(若江城と同范)



7 出郭より出土した鬼瓦



8 字市区画発掘現場